



叙



河内武をさる天を神を好む親に對ふ
 におんまのやふは四時の本にせ
 せぬまのこころをこたのふを神とん
 へふまの時や河内の代謝をたか
 日この法に盡す満まかなる志も四時
 のなみかゝ協むる道の本見をせ命守
 河内の儀世にまゝるふ幻術を具るこそ

玉枝神道とくし神老純予り山あり
下親を信する 翠一 今昔を 古き旅
中よりふりすと探れ

しお初秋

世々山



春之部

元日 元日や元日まじりのゆき
元日や元日まじりのゆき
キナ 玄玄
イナ 柏葉

明春さめあはれと服のうづりぬの女
雀うらやのあはれ明のう
キナ 而石
アハ 万像

墨の底のまきぬを
春の春居あはれいとあはれ
あはれ人よりあはれあはれ
キナ 高舟
キナ 佳舟

廣の春 尾のまきとちまき 防犯なり 列根

初鵙 ちつとつや木のろの言も只於守 伯然

初鵙のちち柳子とまきりけり 花亭

初鴉 下り井らむもちまきれし初鴉 岨流

初鴉のちち柳のまきりけり 采里

初日 ながくそりし初日 太夢

初日のちち柳のまきりけり 雪尚

初霞 風言ち初霞 蓮宇

初霞のちち柳のまきりけり 茂水

初霞のちち柳のまきりけり 舟左

初曆 初曆のちち柳のまきりけり 柏葉

初曆のちち柳のまきりけり 春波

福寿寺 福寿寺のちち柳のまきりけり 礎花

福寿寺のちち柳のまきりけり 甫哉

福寿寺のちち柳のまきりけり 一清

惠方 出ありていつく守たり 惠方イコ 西馬

身よりぬ松の春きく 惠方イコ 月古

門松 つ松より鶴の春れハ古いなり 肥前肥前 寸長

かきものせふはさう朱傘 巨松

万歳 万才のちとこやまふ山家なれ イコ 寸意

美草や板をくさるる方の細り イコ 草尺

万葉や舞をくさるるはめ意 イコ 一松

万才や神よりけり牛の角 イコ 木圭

羽子 羽子つやばらわらぬは 操藤 湖風

眼よりかたき雪の折ひき 羽子の意 イコ 右文

朝をぬや 羽子より時をく 門の意 イコ 夢里

手鞠 実をけて唄はけ 藤の意 イコ 童子

人の偏のくさるるまの意より イコ 堯披

初子日 初日の春もはぬぬや 初子の日 イコ 山子

つ折ておれぬ 今より子の日 イコ 逸江

つ折れき道ふらふ子の目 イコ 瑞水

餘雪

くくその羽たきり雪を雪

アハ 湯

ひまを店を一日のりきよらん

ホリ 茶庫

明屋の木のるるひる余雪

可吉

泡雪

あじきやぬもたひの牛房畑

ホリ 醉雨

ゆい雪をききぬもや車引

松南

春雪

傘の依りぬもやそのゆき

ホリ 文勝

雪解

つらぬきぬき本や破る雪解

テハ 河悦

松の雪くくも地もくく

日向 双鳥

氷浮

おしきり氷くく雪のを

アハ 兔年

そよ樹のけりぬ雪

蘿丈

ゆりけのぬもゆり氷浮

ホリ 布丈

徳那

ゆはゆや木のぬも山の塔

アハ 茶雷

さきぬぬのぬもゆり雪

イセ 雀叟

霞

浪音のなるるゆきやゆき

ホリ 至亥

あらしぬも雪はゆり

ホリ 文彦

雨のぬもゆりぬも

ホリ 泰山

長閑

のくちや梅子のきざら揺すり
吟風 チハ
そよよあそびのしほ梅道 キイ
春丘

永日

永き日やあけ垣振きいなり
柳花 チリ
あきやあそびのしほ 霞の家 チリ
霧暗 チリ
はらけのるるもめし隣より チカハ
更夢

春風

くる風やいとすき海き田の水 チリ
士赤
くるむらと松原吹ぬ春の風 チリ
松石 チリ
智恵の羽のよそはあそびの風 チリ
春山

春雨

もろあめ降しやとらるぬれ ヤマト
可樵
染守のいろとらぬはらのる チリ
竹屋
やじとらあそびのしほ ユト
三騎

春月

はやおうとらるる月 ムツ
たよ女
いよほろあそびのしほ チリ
春柏
花生の灯いとおそ イヌ
柏葉
ふれぬるよ八幡 チリ
文海

春水

梅尻よりとらるる水 チリ
路

おれぬぞ田のいろもや春のあ イセ 梅空

梅

おれたれはふりも春や梅木 チホ 魯公

いづれ日の先は守梅のまをい サカミ 新風

こそいづれも春や梅のいろ エト 結之

梅香を吹き風やうめ トク 和南

やうれの戻ち チホ 梅園

まゆりて カ 梅君

うめや チホ 梅君

ゆめ チホ 梅君

柳

吹はるる チホ 梅君

あき チホ 梅君

おれ チホ 梅君

降 チホ 梅君

む チホ 梅君

降 チホ 梅君

梅

踏 チホ 梅君

笑 チホ 梅君

人 チホ 梅君

鶯

鶯や梅のあけの女

梅 チリ

つらつら

鶯や梅のあけの女

李曠

鶯や梅のあけの女

雅僕

鶯や梅のあけの女

然翁 一三

鶯や梅のあけの女

明美 三

鶯や梅のあけの女

古谷 三

雲雀

雲雀のあけの女

楓 チリ

雲雀のあけの女

士 チリ

雲雀のあけの女

月 チリ

雲雀のあけの女

梧 三六

雲雀のあけの女

竹 チリ

雲雀のあけの女

孤 チリ

猫

猫のあけの女

素 三六

猫のあけの女

友 三六

白魚

白魚のあけの女

史 三六

白魚のあけの女

向 三六

海苔

くくくこの旨くくふくや海苔の旨
ふくくく海苔の旨くく
の旨やゆめくくくの旨くく

エト 万古
十二六 の旨
イセ 如檀

二百茶

ひくくあくくく二百茶
月くくく二百茶

イナ 素尺
イナ 春瓜

凡中

くくくく凡中
くくく凡中
並ねや青くく凡中

エト 口端
ア 思遠
冬六 登水

菜花

あのおやらくく菜花
あのおやらくく菜花
菜の花や月くく菜花

浪藤
拾山
十二六 松室

山焼

山焼のくく山焼
山焼のくく山焼

其外
テハ 有交

焼柱

まくくく焼柱
まくくく焼柱

オカリ 櫛水

稚子

くくく稚子
くくく稚子
くくく稚子

エト 足流
五甲 養牙

行雁 子 雁やあつらひのふりしむ
符子 在冊版 月夜に花もれき山烟り
啼 フミ すすり 桂子や 萩を 桂まきり 岳

行雁 サカ 雁やあつらひのふりしむの音
行雁 ミカハ の啼あまほぬや浦の音
啼 ト 厂あ田りかけのうらうら 風分

行雁 アハ 夕暮 夕の暮 アハ 夕の暮 雁の暮
葉 ユト 葉をりし 夕の暮 雁の暮 尋香

蛙 ラハ 夕の暮 夕の暮 雁の暮 梅水
蛙 ミミ 夕の暮 夕の暮 雁の暮 番石
月 オハリ 月代 オハリ 夕の暮 雁の暮 松溪

蝶 ミカハ 夕の暮 夕の暮 雁の暮 捕雨
蝶 ミセ 夕の暮 夕の暮 雁の暮 一化
人 オハ 夕の暮 夕の暮 雁の暮 蕙逸

孕麻 遠江 夕の暮 夕の暮 雁の暮 嵐牛
の ラハ 夕の暮 夕の暮 雁の暮 久紫

但繁

ほろしほろし連もえりけり但繁は
あはれをいふけりけりやねえは
湖直

花

花風や花のふくも昔の
小原の足りてきしはし
ちよとや常よりいそぐ夕の
潮風の吹流あまの梢の
一壺

まね山とく

ひさかたのききききや花の
音けりや老木ぬきの
杜夢

うらたらくにほれは佳の
あのみふふふふふりや
静嘉

梅

木のうらふそまのうら
まの梅のうらふそまの
樹のうらふ桂のうらふ
いそはは越え見よ梅の
佳月
子厚
松堂
燕及

松

松ささや新の木器も
山士

祝我たけのれは流新のちのち セッハ 曲阜

蜘蛛 花並のよそつまあ 膝下 キハリ 春松

下等も小松も思ふは下 ミ 高牛

山吹 山吹や携るる 殖るる しの敷 下子 森年

山吹や常 ミ ぬ谷の坊 可南

ちん山の歌をさるる

雑 ゆきたも妻のくもりや 院山 始風

妻と交り来よは梅は若葉 キハリ 南岳

子母夜 可大

持るる足ん口川のきさらの花葉畑

日もほろんのひとひらり 希女

歌馬の鞍の漆繩妻め 故人 太乙

川及連る 大 河屋は 大

花分 采 てもふ 采 なる月 采 の膏

おしき 乙 けの 乙 言 乙 さ 乙 え 乙 ぬ 乙 衣

追 大 留 大 の 大 ち 大 き 大 を 大 け 大 の 大 ち 大 葉 大 咲 大 て

暮 采 子の 采 ち 采 り 采 ら 采 葉 采 の 采 は 采 け 采 け

水依五草のちるるまゝとて
 春のしめりのおろしめり月
 きりくはるもつらげとて
 いしうまのちのちのちのち
 けし年々親の事忘の掃きえ
 おもももつらと大粒れり
 友砂の光りをちる守言先
 余念も降るる月を志つる
 咲花の傍におよたき見おろ
 柳を髪そむすゝ糸遊

大 隣 花 古 隣 花 大 隣 花 大

如月十日のちのちのち

けし年々親の事忘の掃きえ
 おもももつらと大粒れり
 友砂の光りをちる守言先
 余念も降るる月を志つる
 咲花の傍におよたき見おろ
 柳を髪そむすゝ糸遊

清 嘉 清 嘉 清 嘉

本一のしるしの下をきる
能無ふついなをぬれおあじ
合島して居る影屋の陰口
押ひくちも能る志わどしき
すくはくく千か歳の女をく
かきつてけしめる月見の生を
土瓶の湯音をき居る端唄
あつたた家のあゝ家つづの
籠おあけておのち核留
あまの枝をくする夕嵐
清 嘉 清 嘉 清 嘉 清 嘉 清 嘉 清 嘉

廿四

のしるしのしるしの目ほ
各所の晴る雀ねぶらじん
ふそくさくぬる徳者川の鳥
戻返を合をてたぐる土をより
あかすり口中をゆくる甲斐
竹細工奇毒千店をみるいそ
つくとと更く通つ。仲人
まじわつた畠田の佃母の居りし
おそおとぬきりの藤柳
律紐ますけにておのちを鞋
嘉 清 嘉 清 嘉 清 嘉 清 嘉 清 嘉 清 嘉

廿五

あつらひ 庭のうらをたぐりま
 うつらひ 庭のうらをたぐりま
 水産すやう 博と博と
 試の影 内をぬる 遠し先
 おちし しのそくく 虫のま
 降あま 宿を 宿のま
 冊を 巻の又ぬけてし
 えがら きの 宿のま
 はやちんの こと 青も友代
 清 赤 清 赤 清 赤 清 赤

鶴叟

あつらひ 庭のうらをたぐりま
 うつらひ 庭のうらをたぐりま
 水産すやう 博と博と
 試の影 内をぬる 遠し先
 おちし しのそくく 虫のま
 降あま 宿を 宿のま
 冊を 巻の又ぬけてし
 えがら きの 宿のま
 はやちんの こと 青も友代
 清 赤 清 赤 清 赤 清 赤

よしあしきくやこのきぬめちち
 運夢とちいしくも年よかり
 まいさすての遠い日を標
 ゆうとほくえぬさるる壺の力
 ねんじいしほりあゆみの徳
 おつ川りの陽きの金のゆしは舞
 ゆうとくこの胸のわたり
 ちよとこのけいひの身をほ
 ふたもやきく 巨魁物たる
 山 叟 山 叟 山 叟 山 叟

夜之部

宵 後楓のきくゆ風きく宵乃水 きり 柳裡
 岩と杉と苔のちすや きり 行経
 ねんじいしほりあゆみの徳 きり 美交

裕 物より人やい きり 未明
 長あしきくや きり 竹徳
 ねんじいしほりあゆみの徳 きり 看石
 ねんじいしほりあゆみの徳 きり 大夢

青蘆 冬の終り 櫻のついで 春のまき 水 万花

あつたかいし 降るや 春の蘆 号明

短夜 冬 秋の何のし ぬるや 舟の舟 楓如

さゆり 舟のけし 舟をぬよる 借高

み 夜や 舟の何のし 舟の山 波重

明易 ち 冬 春の末 和や 明や 舟の舟 社参

あつたや 舟のきお 舟をぬよる 舟の水 柳乙

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟

榭 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟

日傘 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟

扇 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟

牡丹 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟

まのふらふらなるまじり牡丹丸 テハ 津風 テハ
まのふらふらなるまじり テハ 若山 テハ

杜若 那れ半そと相の テリ 産叟 テリ

古唐舟一擲ふらふらなる テリ 星岬 テリ
ゆらふらなる テリ 再々や杜若 テリ 若山 テリ

芥子 けしきやを産のゆら テリ 稻水 テリ

白ふのあけいなる テリ 全 テリ
おのふらふらなる テリ 外 テリ

おのふらふらなる テリ 夢 テリ

急あふむのはま テリ 柳花 テリ

麦秋 けしきやを産のゆら テリ 有 テリ

清水 テリ 野橋 テリ
麦秋 テリ 若山 テリ

外花 けしきやを産のゆら テリ 若山 テリ

うのふらふらなる テリ 孤南 テリ
おの花 テリ 若山 テリ

郭公 浦風平川子言者やりてふは 二六 登宿

宜を言ふ登日の橋やふぬ海 廿七 昌山

新田八国は身持所 廿八 柏柴

吹くやれ身つゝまへに 廿九 湖南

星崎 三十

招きと子金伝ふや 三十一 其岳

栞板ハよき 三十二 伯然

傳ふもの覚束ぬ 三十三 桂園

三丹を踏く老宿の藤子 三十四

老鷲 山海や 京の貴客 三五 南街

閑吉 三六 河原

女 三七 偉文

あ 三八 松嶋

頼嗣 三九 一江

岩山 四十 古通

行子 襟の花下 四一 艾園

お 四二 二路

行子 四三 李裳

花御堂 二三丁 摘ゆりめそや 花法堂 カ 林坡

佛生會 カ かしと人の指や 仏生会 カ 雨岳

薩仏やまききし子晴し 朝の露 カ 露年

懺 色進多そや 扉はの懺の風うり カ 可大

こえおして 少ふとれき 懺の風 カ 可蕉

五月雨 よいふしをまふとて けりき カ 蒼雪

さささ 杉や ぬるあうれとれき カ 多蕭

みくもや ぬく 塩家の 際 カ 一松

青晴 夕 夕のりや 弟まん カ 雨形

松苗 カ すすいしのいそ カ 淡有

菖蒲 子修 カ まつて またさるゆめ カ 碩有

沼 カ の 針きく カ をあり 軒 カ あめ カ の カ 志

紫陽花 紫陽 カ むの カ 下 カ や カ 日 カ の カ ゆ カ る カ あり カ 溜 カ り カ 志好

田植 山 カ 間 カ や カ と カ こ カ う カ う カ 志 カ 田 カ 一 カ 枚 カ 鳥岬

新田 カ や カ 植 カ る カ 田 カ へ カ り カ を カ 通 カ して カ 舟 カ 葵行

早苗舟 揚 カ 人の カ あ カ め カ 入 カ り カ 早 カ 苗 カ 舟 カ ね カ 思遠

批三

茄子

もつ茄子や清しき水

別冊 柏石

袴着ぬいのよすき

マキ 樵弓

あふ山ちうき

青梅

青うめは梅を好む

在石見 三子

栗花

吹くくさくさ

栗のしれ 三披

今年竹

ふいねる葉あきの

十六 三角

若竹

くさくさ

列根

若竹や月よち

文山

若竹の葉あつや

十六 松葉

浮草

舟跡をたどる

下 色 倒

研みし強きを

葛道

水鶏

水鶏をそむ

漁藤

きんりや

兎矢

きんりや

ま布

蝉

蝉永むりの思

下 多 吟

きんりや

梅雨

川音のすし

九 起

惟子

かきいづや木魚の嬉しくよる柱
たにやれやれと通す方のぶす地
橋南

穉

る肥守人の乞りうち中記を
そちの記書もれそりあそひ先
常晴

不垢離

垢離のふし山守命やあ三指
完伍

長氷

常くもあそ一日 夜 氷
店の暑くくくく 夜 氷
久榮

炎天

炎天やめくく力のあ 夜
あそやけ木くゆき日向日
及

暑

夏の実のすいしはる暑る
心はぬまをそゆり舟の中
照つるそあのおりや日向日
佳友

納涼

灯を招き居るそ今川すき
あそいあそいで三階の納涼
そめいすきれい涼しあの日
松麓

涼

北五

風意

足袋の砂は末をや風をさ
あゝあゝ風をさるるや
不 花文

青嵐

その〜〜〜
ふとれおほしき損をまゝあはし
まのぶし〜〜〜
一柱 向ふ
ふふ

夜月

先照り守夜にや
夕川にゆきの光るや
ふ〜〜〜
松栢

白雨

振のよけぬ曲り
内を指して清〜
石圃

清水

田〜田〜
月夜をけり〜
す〜〜
大夢 有柳 紙底

菖

ち〜田のあ〜
菖斗〜
松〜
赤葉 木朋

青田 夕々しや 青田の危 海平入 十六 知風

夕々しや 夕々しや 夕々しや 夕々しや 十六 知風

夕々しや 夕々しや 夕々しや 夕々しや 十六 知風

麻 つくしや 東風 夕々しや 麻の身 十六 平甚

瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 十六 鶏魚

瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 十六 白恭

一 夜 内 ちんちん 親のふくや 一 お 内 十六 祖郷

葛水 葛水 葛水 葛水 葛水 葛水 葛水 葛水 葛水 葛水 十六 草尺

貞磨 貞磨 貞磨 貞磨 貞磨 貞磨 貞磨 貞磨 貞磨 貞磨 可大

すし けや 物 けや 物 けや 物 けや 物 けや 物 佳友

青田の 青田の 青田の 青田の 青田の 青田の 青田の 青田の 青田の 青田の 佳友

新 新 新 新 新 新 新 新 新 新 佳友

何 何 何 何 何 何 何 何 何 何 大

思 思 思 思 思 思 思 思 思 思 大

口 口 口 口 口 口 口 口 口 口 友

いつら 喉 喉 喉 喉 喉 喉 喉 喉 喉 喉 友

教りたるはむ所吹の竹
梅陳すむ尊立屋振のふもはし
うそしと極きゆしと等疵痕
名をり子亥の子の解の兄才
まふき寸剃こころひしと云
形さく月を床に服は襟つら
曲じ伸さるる聲さのう
流ぬく指ささくくの細粒は
老の元寺の口和下終をき
風の色今もゆふれきたさる

大、友、大、友、大、友、大、友

さるまふりおくたむ席杖
教入の道かき芝非はさひつれ
日あしをるる時を言さる
その喰ふ音はしと癩も消す也
世非はくも也十ゆら先
もらふ時吐しのやうはくうん
おぬを谷もくくしと冬
うけきふおのりきよこはれ岩
牛の壺殿の角てさくこちる
塚り出寸葉海好蹴ハ古風ん

大、友、大、友、大、友、大、友

柔和れ人の笑も持あ
 灯も睡つと月影の夜祭
 砂のゆつさをあはれず水
 西北より舟の自津の風のみ
 痛くは昔のの薪くく心
 焦る鼻を加減の下の引て
 江湖の寺の採乃人こく
 舞くも抱もあ笑そのゆり
 くさくさゆやるる山々の表
 大、友、大、友、大

古梅室

ゆのやうに降くくくも田植るま
 茨杜鵑花の咲つてく道 詰
 高人と臭荷あ合平布立て 室
 ねまぬくひくう立ぬくく飲 々
 在明子掃隙をくまる大自先 室
 巻ておのくき家の席へり 々
 牛糞尿の供物をあはれく在 々
 付養るるる親子すけねき 室
 くくくくくく碓をあはれく在 々

何やくやれ雷風の音
 自裁千月ころかきこゝろき徳
 あり起るる木戸の又古
 月よりき歌千つる志る松
 江をすもりの九千雁の一年
 芳晴くこと回て指の響の中
 月ひ唄ても志まると屋千う河
 波さぬ井波寸庵きも花の如く
 月某じしき山吹乃り家
 室 々 室 々 室 々 室 々

秋之部

立秋 立林やこころ志るまゝはと 夢
 仙夢
 初秋 初秋や 雲ももるる天の川
 大夏

今秋 破きもの 揺るけりたはる秋
 箕山
 細鹿もあゝる 押のひやけの秋
 廣地

初秋 初秋や 月秋や 月秋のよき年等
 兔年
 初秋や 不二のまゝ 一知すむ
 雨岳

初嵐

初嵐 風をいしきよおるやもつ嵐 エト 遊原
ぬれ雀うしきく飛やもつ徳し 等裁

残暑

残暑 風干浴雨のたれき跡長 六 花遊
庭石干つてまのまの 六 南涯

梅妻

梅妻 土のむらさき 六 芥舎
いちつきの梅もや枝路のむら 六 琪々
稲妻や 桶の齧の 水 青々
梅妻の 六 列根

銀河

銀河 門よりふゆ 五 姫風
あまの川 五 偉文
この川 イカ 養瓜

星祭

星祭 けし 六 西甫
き 六 鷲道

踊

踊 翌 カ 柳壺
年 六 甫哉
去 六 思遠

初月 イカ 夕景

初月 イカ 夕景

霧 イカ 暁

霧 イカ 暁

晴日の雲 イカ 暁

露 イカ 白路

露 イカ 白路

月 イカ 暁

垣 イカ 暁

温 イカ 暁

桐 イカ 暁

桐 イカ 暁

大 イカ 暁

桐 イカ 暁

葦 イカ 暁

葦 イカ 暁

戸口まきく山の夕日や

子平

孤舟

田はうひよりつるれ雪の紅葉草

升悉

未枯

うらぐれやとさるるり野々夕暮

鳥舟

未枯やあひひりりけき家あり

子平

支耕

行焔

由久杖や茄子の壳よも一ツ

命

清氏

吹りけきり水青よりそ秋はけ

命

松雲

雜

長島の秋はあつらへし蒨草

柳舟

ついでむよ秋のききりや瓜茄子

命

半島

素心ふをりけのきりや杖のき

お戎

人こえて雲のをれねた山

淡舟

出るりりきりむ未の三日月

箕山

ふきけ網の目つきよのたやう

舟

いつらすりりぬきり吸く

山

あは仙のまきり一帯く松舟し

舟

あはまきのふきりを喰くのち

山

御くこの素足に到てよぐり
乳はてまきりりー燕中
あつそりと飲よ者の出きて
らるい後架をさるい南天
ち子等よをいえてはるあ
中壺よりりの太鼓吹る
石言れけもわい好き月の林
つるし外をすゆる里中
婦より帯するあいの妹は
申刻のつれい風居もいなる

山 前 山 前 山 前 山 前 山 前 山 前

あつ知ぬ人のすれゆかたの
宙くうしてゆるる乙女
あのをまをあち母のゆたも
宿をふるも嘆のやほまぬ
まほひくうはてゆるる縁の
依の垣のたつき 中 高
あのもちういあおの影
衣締の傍ハ向く千とら
けいも好れ欄をさるる
まのうきき楠の板幅

山 前 山 前 山 前 山 前 山 前 山 前

負ふをうけ投却しての事高麗
 社名あらしき事七夕
 木屏も折る事と句あり
 然ておの事ありし
 好れて折る事鞋さくの事味知く
 丸て買ても知れずお弾結
 仏檀のぬしを摩らう二枚折
 墨の事ある事志らめら
 花いまこ事うの事年館の事
 蔓のちり事年志まる庭折
 山 山 山 山 山 山 山

水萩やそのくまきこある事
 月やうの折りとのおら 築山 梅園
 秋の声種より外年字そめて 淡野
 水より事ん事ん事人の服をさる 漁原
 うちくしとお機につく事ぬり事 園
 いとあつ事年のひら竹の子 山
 運のむく事口と水き事有卦も入 康
 葉のゆめ事ぬい事折らもよし 野

築山

三月のしんくといふは糸つぎ
とめぬて你お中いささか
うつろと立て水柱平血をえ
ひろの方よりい山糸む
夕月と寺石のむやもつる魚
喜父入の未て飯の追焚
年寄れに松ちゆくもささうあ
あま地よ遠く家の足つり
ゆくおと旅あひとおかを
きてくめささうは船のゆつまる
山 糸 魚 山 魚 山 魚 山 魚

一面の出水と桐のいとむれ

徳彦

新月たかくつらぬ鶉の窟
やさしくあつる窟をたれあ
下男おも用のすくれき
河川をうづらぬ松の月
日かすむくふ東風のさまり
遷あもゆり橋あつる糸
月くくの杖より裾をつら
山 糸 魚 山 魚 山 魚 山 魚

ふらんちりと隊をんて作る物思
相も出てと花鄙くゆりゆり
笠戴るお根の駕を雁いん
をーらたれい返るりしあ
責ひら刺しとゆらぬたれ米
疵舞よゆら治と底く
たふこと牛追つれてゆら月
垣根とすくと砂のふよよを
さくもこのるこり帆のこも
籠りおくれぬまの居きり
藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤

てと備まつそ服のゆくぬれ
隣子ゆす月々月のさー入
とつくと雁舞あとのおと舞
笠の草鞋のひもとあすなり
雪踏の雁いをもそとつ入合を
くくくくくと煮る風呂吹
伴勢講の向うそおとるまそ
竹まきまてとそるのゆる楊
藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤

遊阿

久紫

藤

名くえ披衣ののびくく
貸出の金のゆきぬくーら
お明まへーを濁やぬえ
くしくと位てきまへーを
すりつりとーの伊袋の版
撥け火入の灰をちり月
あついで中ーもさつや
お横取の訓海めら只の男
つる魚のさぬる青のき
併へーのさぬる青のき

松 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松

みくくふさ枝の陸うとめく
号ふくん妻の名跡より
子信をたす寸銘くさる
石状の何そあきく
流と菊庄の桶のむと
そやはれてゆれき
借着無さし汗の身を吹
まろ悪くさ糸ほとる大
ゆくくゆやーと鼻の不す
の板柱と乞合院のゆれ

松 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松

四世

三つ分れ鏡のあはるゆさ引
 一海の考えらる中も月所て
 をくくり侍もくくつらつと
 連呼て弱馬の又来るを何し嗣
 忌のあくまて対極ものそくぬ
 養取の元遠る布と幸さうり
 おのころはれき神のきく出守
 花の直ちらつく雨のやるせあま
 もくしおらけに中の三つはつ

前 松 前 松 前 松 前 松 前 松

冬之部

小春

井畑の対ひいとつ立小もるれ
 切盡しうは日の抄る小妻く家
 京の培もるかよくゆらつとる茶

柳花
 草季
 偉文

新忌

時雨

苔ぬけ衣布とのぬひやおくれ
 片ふけやしくねて赤お教柑子
 扱くきまの終るよまて松の風
 教のうへ一爰もあはぬくれ

大夢
 羅那
 箕山
 系那

雪

梅の影のまじりも雪の音 十六 石叟

雪の音のまじりも梅の影 十六 鳥子

雪の音のまじりも梅の影 十六 甫哉

雪の音のまじりも梅の影 十六 圭存

雪の音のまじりも梅の影 十六 芝原

雪の音のまじりも梅の影 十六 房晴

雪の音のまじりも梅の影 十六 多行

雪の音のまじりも梅の影 十六 拙堂

霜

霜の音のまじりも梅の影 十六 士芳

霜の音のまじりも梅の影 十六 篤明

霜の音のまじりも梅の影 十六 漁藤

指

指の音のまじりも梅の影 十六 梅裡

指の音のまじりも梅の影 十六 李朗

指の音のまじりも梅の影 十六 騷々

炭

炭の音のまじりも梅の影 十六 静嘉

炭の音のまじりも梅の影 十六 弘月

炭の音のまじりも梅の影 十六 素庵

水仙 スミ あり 仙や 葉を 養を 花を 遊き

イヨ ちいさく ぬけりや 水仙を 風

水仙や むくや のきき あり 煙 イヨ 枝月

露花 スミ 塵すく 来りて 入すや 石の 花 スミ 妻松

産す 言は 木の のき する 露の 花 スミ 梅兒

枯野 風の 音の しく 枯れ くれ の 花 エト 黍象

つらきん ころろ けぬき 枯れ くれ イヨ 素路

ぬま 中よ 涼の 実味 きの くれ の 花 スミ 蓼外

枯芦 くれ おし 中 風の 音を 声す 花 スミ 碎雨

枯芦や 渙し 出る 甲の 音も あり スミ 山士

枯て あり 月を 涼す や 花の 芦 スミ 孝月

枯尾花 川 幅す たり 水や くれ 尾を スミ 松隣

岨の 家の 垣す くる 枯尾を スミ 禾立

くれ ちり とも 風す 光る や 枯尾花 スミ 思遠

麦 蔭 麦 蔭 や 仕す 下 交日 一 キイ 桂圃

大 根引 ね の 音す 出来 小 橋や 大 根引 スミ 河院

衡

波もろや小石蹴立て啼子鳥 下 歩跡
昼も田まのふ雨万のちりり 下 故厓
溪側ハ石屋りりや啼鳥 下 也
子鳥好くとりおそ月波の之 下 南岳

無明

あ、あやうらうら 下 加増
あつとき声やあつあつ 下 未明

琴

くくけのそく 下 松貞
うたへて月ま 下 草尺

鶴鶴

あもれく子 下 松貞
小底のあ 下 羅徳
あーあ 下 尾村

何豚

言 下 丹跡
後 下 古棠

神送

大 下 一松
夷 下 扇牛
血 下 養血

養血

石 上は下を無きまはる 結法交
石 常くくくくぬ鳥の毛ふりき
石 うれしく男くくくと疾とほし
石 葦 廣く口ハツ川もくくくく
石 よくうれてきうくくくくくめふ
石 上まの研沙才子くくくとさ
石 西めくぬ西も月おの人通り
石 子くくくくく 葦の吹さくくくく
石 一くぬるふくく十日もゆくくあり
石 けうくくくくく 酒の香くくく

石 けさくくくくく 花君くくくくく
石 吉木のやうくくく 梅の芽をくく
石 うくくくくく 庭の窓のそくくく
石 寝言くくくくく 年のいふ
石 けくくくくく くれくくくくく
石 漆井くくく 形子くくく 年
石 竹風を落す茶をくくくくく
石 奇味くくく 川へ埃を掃くく
石 水渚奇の声吹おるくく 別産
石 うんくくくくく 土用干くく

巻五

出候の事辰翁まで裁とそ
 返事―出るもあやる小丁種
 月もまうとあぬわのくを辰し
 縁の冷平―ちるふ 漸とま
 年かゝも草を足してとる処こら
 家並平―まらる 縁宜の丁寧
 糊面工侍々々指をゆてゆはし
 猫の子てはく 縁のよ―あし
 字刻ちるくもあまの枝ぬれき
 石 魚 石 魚 石 魚 石 魚

巧くはりの本のまらる 常炭の舟
 筆もすこやれおの 新起 披筆
 釣墨こら就の黄名 鴨りて 鴨務
 多し平―かゝる 福りとのらり 畫
 控解平―まの月き行 振の端 平
 ぬえてとしきぬ 石のあけし 橋
 枵つめの温湯をさるるの 房之 畫
 楯の紫うけ平 何をぬ守らん 畫

歌と月を合しつゝあはれもあら
きと一日てすまぬおし
あゆむよりけしと子を呼
す急てよためけ旅路の金床
月あけりらるるちよを
さくろ 瓢子 砂のひつた
杖きき真身携り人の声
泉 野のそくく 園へ 運らむ
ちよちよを産たす言も旅ゆく
あはれつき携り畑あはれりり
携 聖 毒 携 聖 毒 携 聖 毒 携

佐和加とち携り来るやうに海を
つおのちをさけて見送る
知れしゆの燕をいまこひかたれ
つくり笑をすまらぬはし
隣りとも毎日涙をながす
天晴 庭は 務め 山 菜 花
携 神 子 老の 體を つら
りやう 瘧疾も けり 色 けし
所の子 魚を 出たけり 干き けし
中よりのそんで 鯉 翁を あ久
携 聖 毒 携 聖 毒 携 聖 毒 携 聖 毒 携

遠く〜遊ばそめくふ兔
 草のふさひ〜あとの出
 せねと〜と角力〜来すはし
 十餘年〜風のち〜舟つき
 釜の火〜公方の灯の蔭〜
 床碗〜おく〜瓶の蓋
 兄よか〜切えも明〜裏のむ
 日あ〜や〜ま〜く〜ち〜菜
 聖 瑞 畫 聖 畫 聖

遠来の分季をいつくすは知ふ出寸

月〜つ〜る〜や〜物〜を〜殺〜の〜鳩
 麦前や〜あ〜る〜も〜わ〜く〜鳩〜の〜く
 赤き〜や〜植〜を〜は〜い〜り〜外〜の〜音
 い川出来い〜幕の家や〜川〜柳
 夕立の来さ〜う〜れ〜ま〜や〜橋〜の〜聲
 雨晴の日の〜く〜く〜や〜木〜槿〜垣
 水響を〜え〜ん〜け〜て〜き〜一〜船〜上〜り
 枚屋つれ〜が〜利〜ね〜く〜が〜り〜揚〜子〜が
 きれ〜た〜け〜を〜平〜野〜吹〜り〜郭〜公
 下 首 磨 芳 取 風 声 五 雲 赤 雲

